

# 「チャレンジド・スポーツ」から学ぶ

【川本町立川本小学校】

ねらい

パラリンピアンと触れ合い、障がいやパラ競技への理解を深める

いつ

令和元年 10 月 7 日（月）

どこで

川本小学校 体育館

だれが

児童（3年生：16名）教職員（4名）

※講師…藤田英二氏  
[山口県障害者スポーツ協会会長]

なにを

- パラリンピック等の講話
- ボッチャ体験（パラリンピック競技）

概要

- ・パラリンピック競技について話を聴いたり体験したりし、パラリンピックの理念や価値を学ぶ。
- ・『チャレンジド\*』の言葉の意味を知り、様々なことに挑戦する意欲を高める。  
※ 神様から試練を与えられてそれを克服する人たち。
- ・障がいのある方と接することで、相手に対する配慮や日常生活におけるユニバーサルデザインに気付くきっかけとする。
- ・今回学んだことを今後さらに深めていく学習をし、それを学習発表会などの機会を活用して保護者や地域に発信する。



ゴールテープを切る一瞬と、マラソンで優勝するまでに費やした時間は、同等の価値に感じました。

オリンピックは人間の限界に挑戦、パラリンピックは人間の可能性に挑戦。

どちらがジャックボールに近いかな？

いつもはどうやって食事したり寝たりしていますか？



講師は 2000 年シドニーパラリンピックの陸上競技に日本代表として出場。激走する当時の本物の映像を紹介されると、全員が思わず見入ってしまいました。その後、「パラ競技を続けているときは辛くて逃げ出したかった。」と本音を語られ、輝かしい栄光の裏に並々ならぬ努力があったことが伝わってきました。最後には、「いろいろな人が一緒に暮らすには、どうしたらいいのだろう？」とのメッセージを残されました。